



白濁之齋の山姥

上之巻

見せりみりきり



六はもろふささぎ

^13  
3274



門へ13  
3874

昔語尾  
花振袖  
中之卷

芝翫作  
國貞画  
甲午春  
錦耕堂  
新稗史

自序

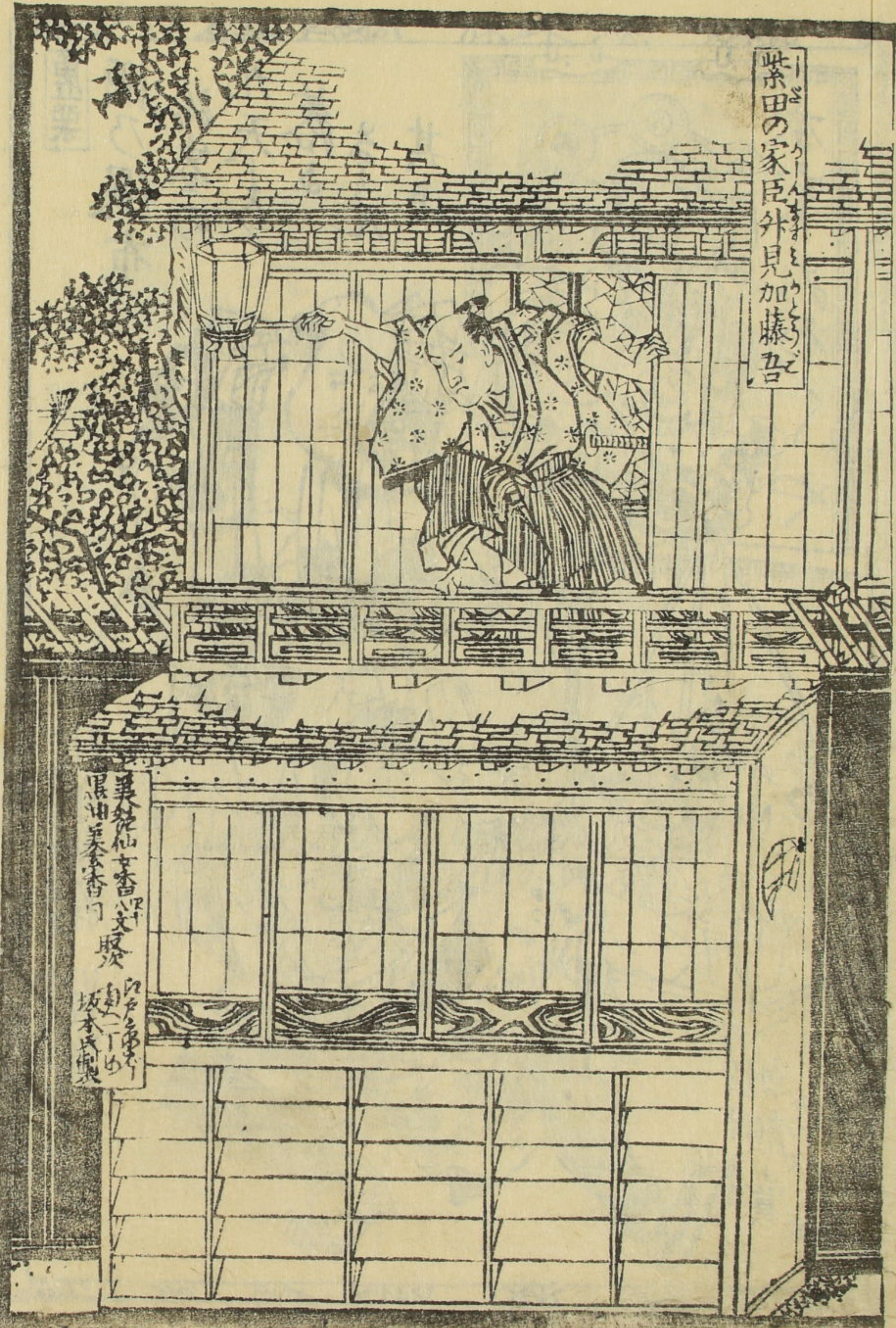
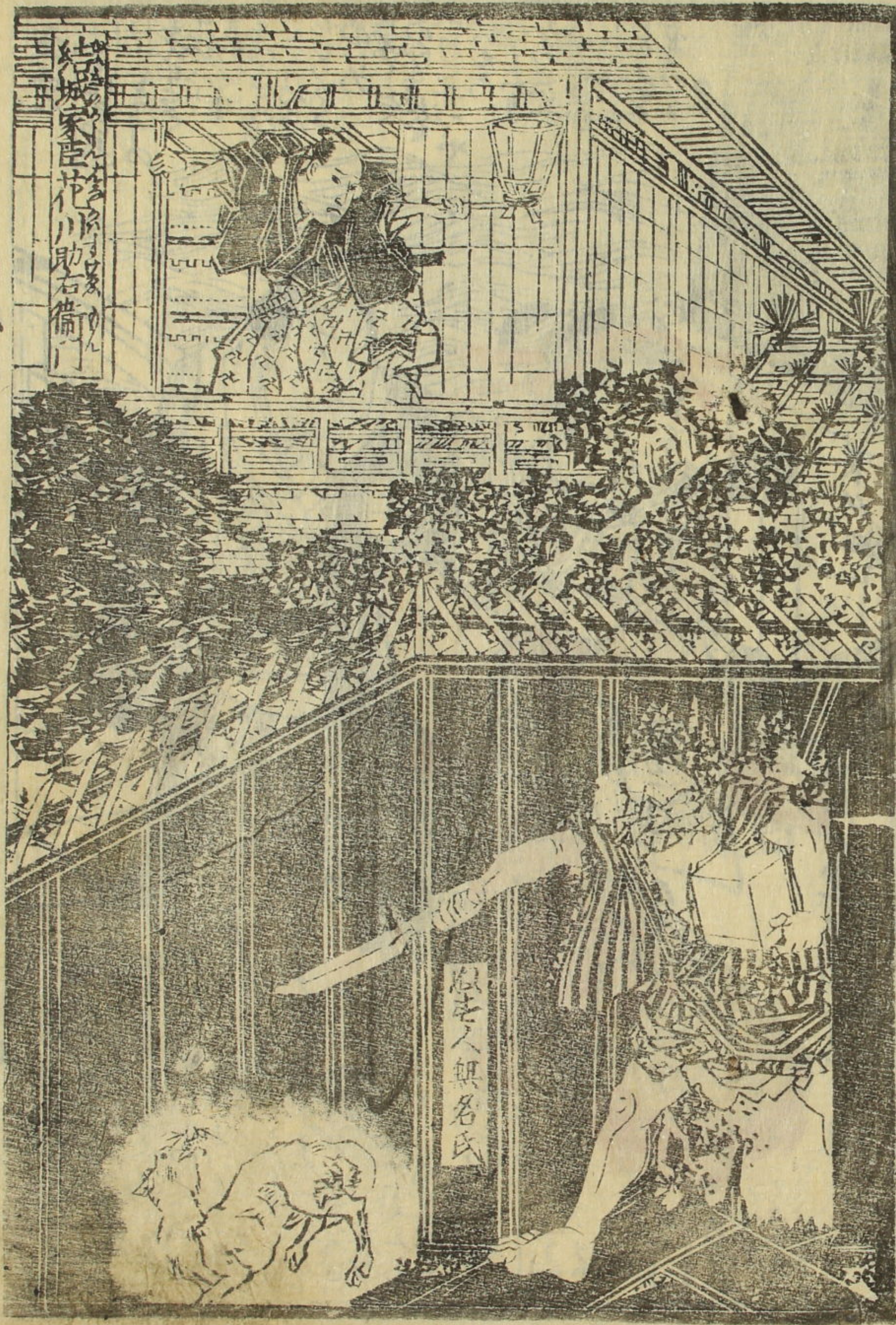
遠見の學を盛ぐ正本を讀む由なく日覆の△△の映トて  
書格を練らよハ足る縁と鏡臺の机上塵うち拂ひ顔獨の  
期を兼之稿成方六冊の趣向ハ助六揚卷を所縁ハ假用て  
紫城赤本ゆむと脚色の軟弱やを予引戲の態と去る流  
行あるも版主ハ渡場繪を依りて引てのいさく春霞たて  
るやのいさく野氏山口屋々々茲年ハ幾免先哲佳作の体裁と比  
べて是れハ雪と墨辨者めるとか訶りあぐ月兮花兮と脚一覽看  
官の君あしくトありふ

坂東甚表助題

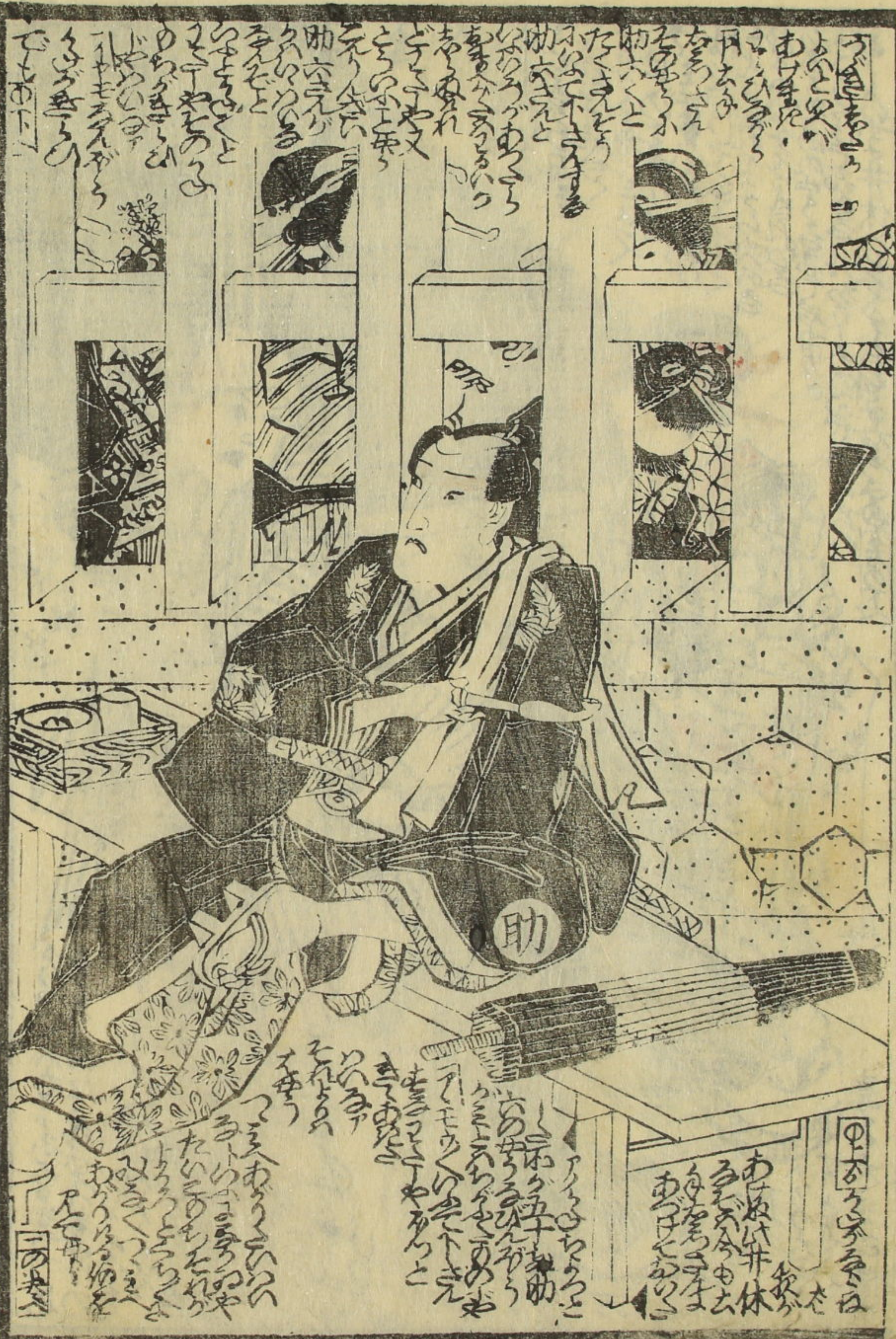












うきまは  
よきと  
わんせん  
しんみ  
月ま  
なま  
おん  
おん  
たて  
おん  
おん

○おん  
おん  
おん  
おん



おん  
おん  
おん  
おん

おん  
おん  
おん  
おん

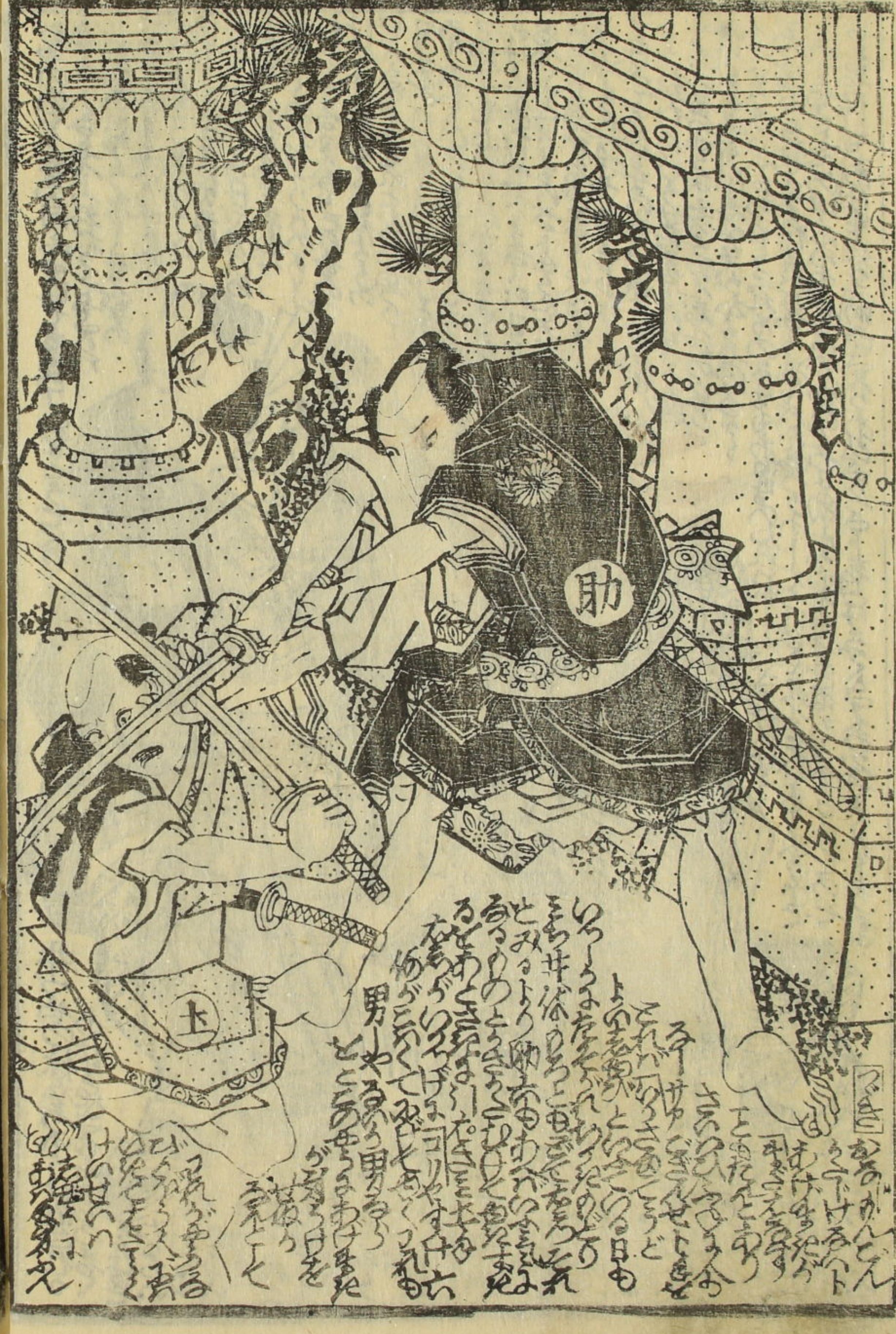






コトやまがあらぬ...  
男の年々不本身に...  
よめおのりまの...  
...

大母を  
まのあひ  
つれをま  
しつれを  
またのち  
それき  
それと  
そのゆ  
おすそ  
またり  
...



男や  
...

...

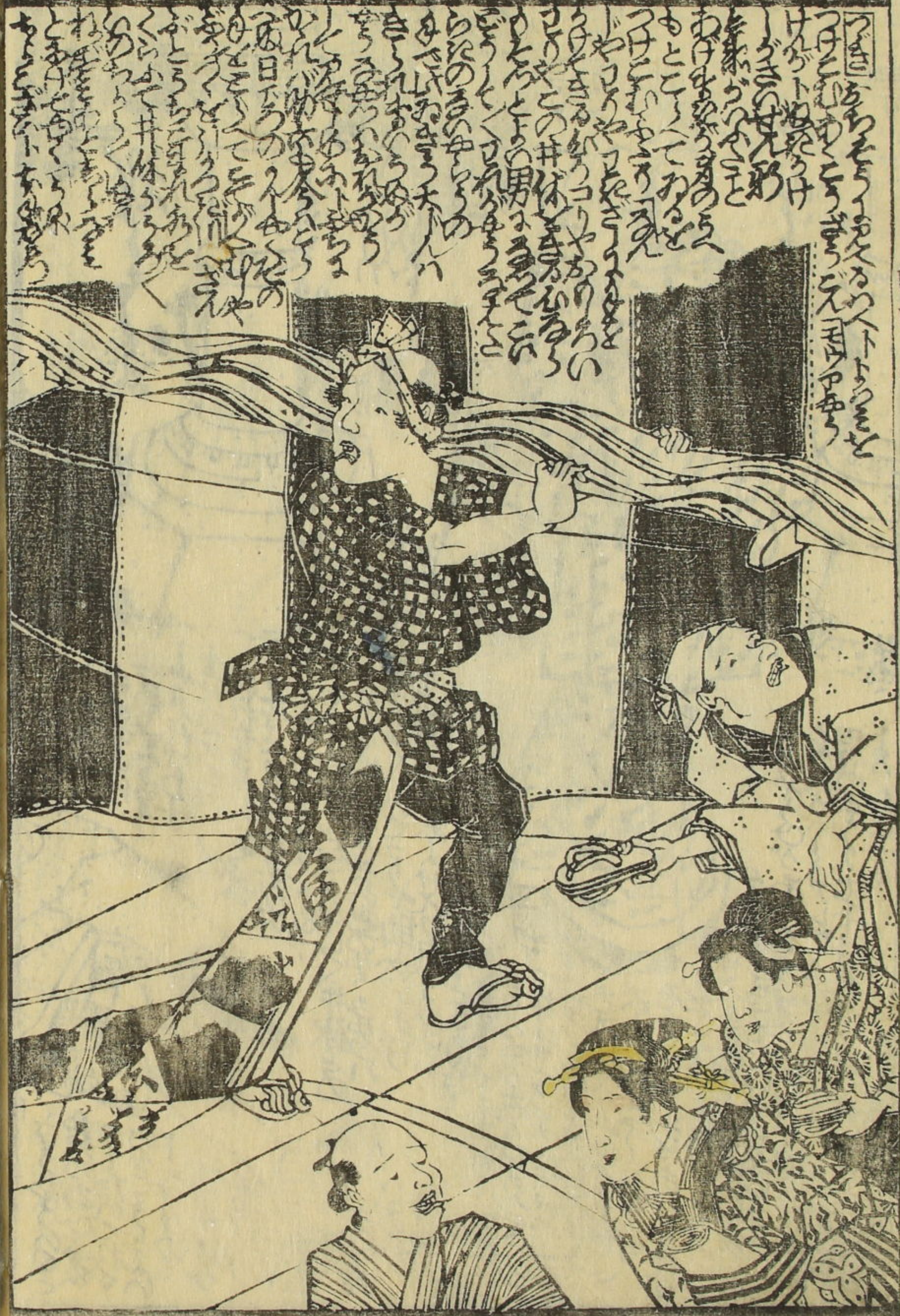
...



つらさうと一おとす  
おれおれと身どら入  
てらんやるとはなま  
おいてくるとし  
おれいひひ  
つるものさき  
おるものさき  
おるものさき  
えとや日也  
おれおれと身どら入  
てらんやるとはなま  
おいてくるとし  
おれいひひ  
つるものさき  
おるものさき  
おるものさき

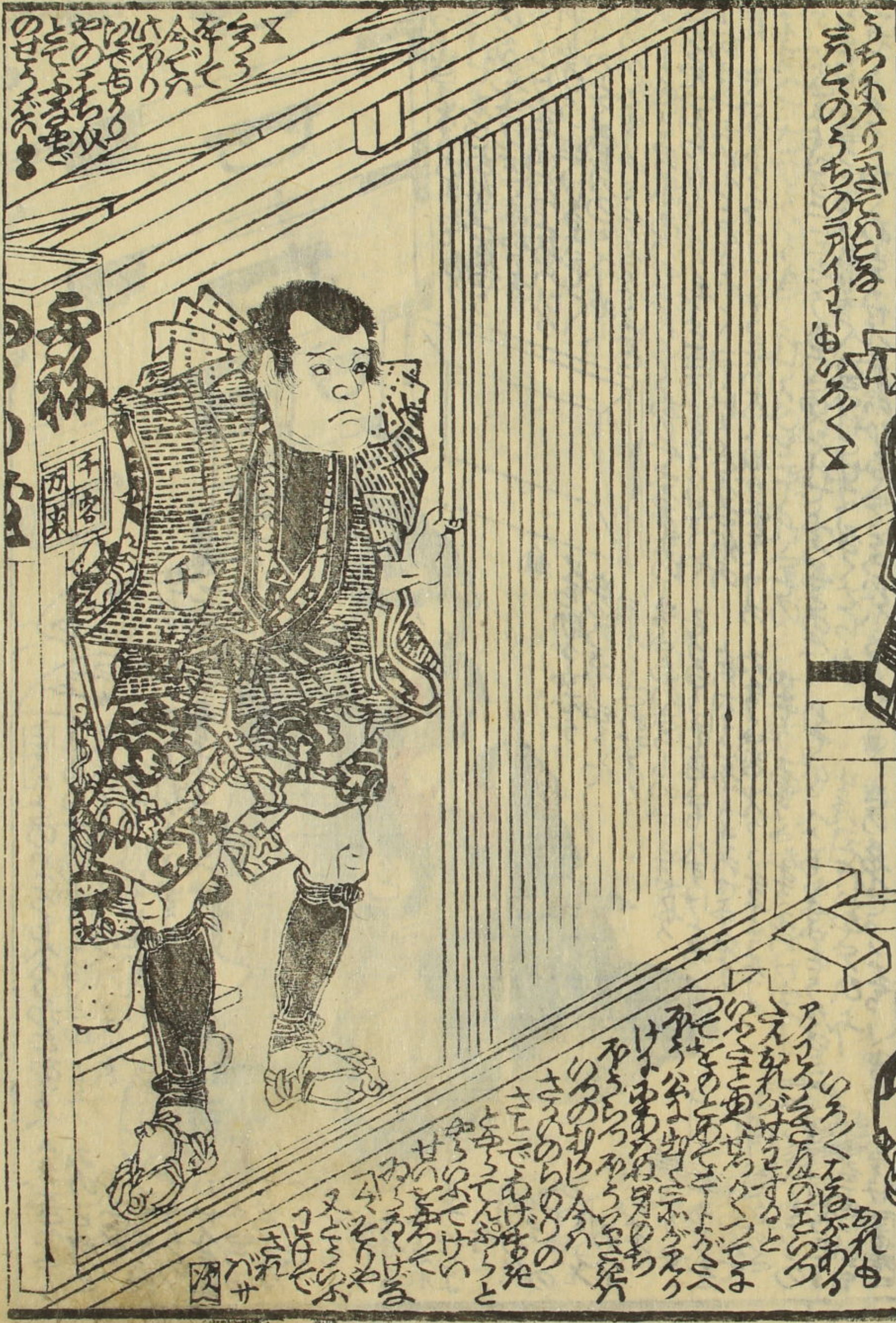
あつるう  
あつるう  
あつるう  
あつるう  
あつるう  
あつるう  
あつるう  
あつるう  
あつるう  
あつるう

二八二



つらさうと一おとす  
おれおれと身どら入  
てらんやるとはなま  
おいてくるとし  
おれいひひ  
つるものさき  
おるものさき  
おるものさき  
えとや日也  
おれおれと身どら入  
てらんやるとはなま  
おいてくるとし  
おれいひひ  
つるものさき  
おるものさき  
おるものさき

山ひひ



さうさう  
今や  
けり  
の  
と  
の

うらみ入りの玉の  
うらみのうちのカイロもさうさう

あれも  
うらみ入りの玉の  
うらみのうちのカイロもさうさう  
うらみ入りの玉の  
うらみのうちのカイロもさうさう  
うらみ入りの玉の  
うらみのうちのカイロもさうさう

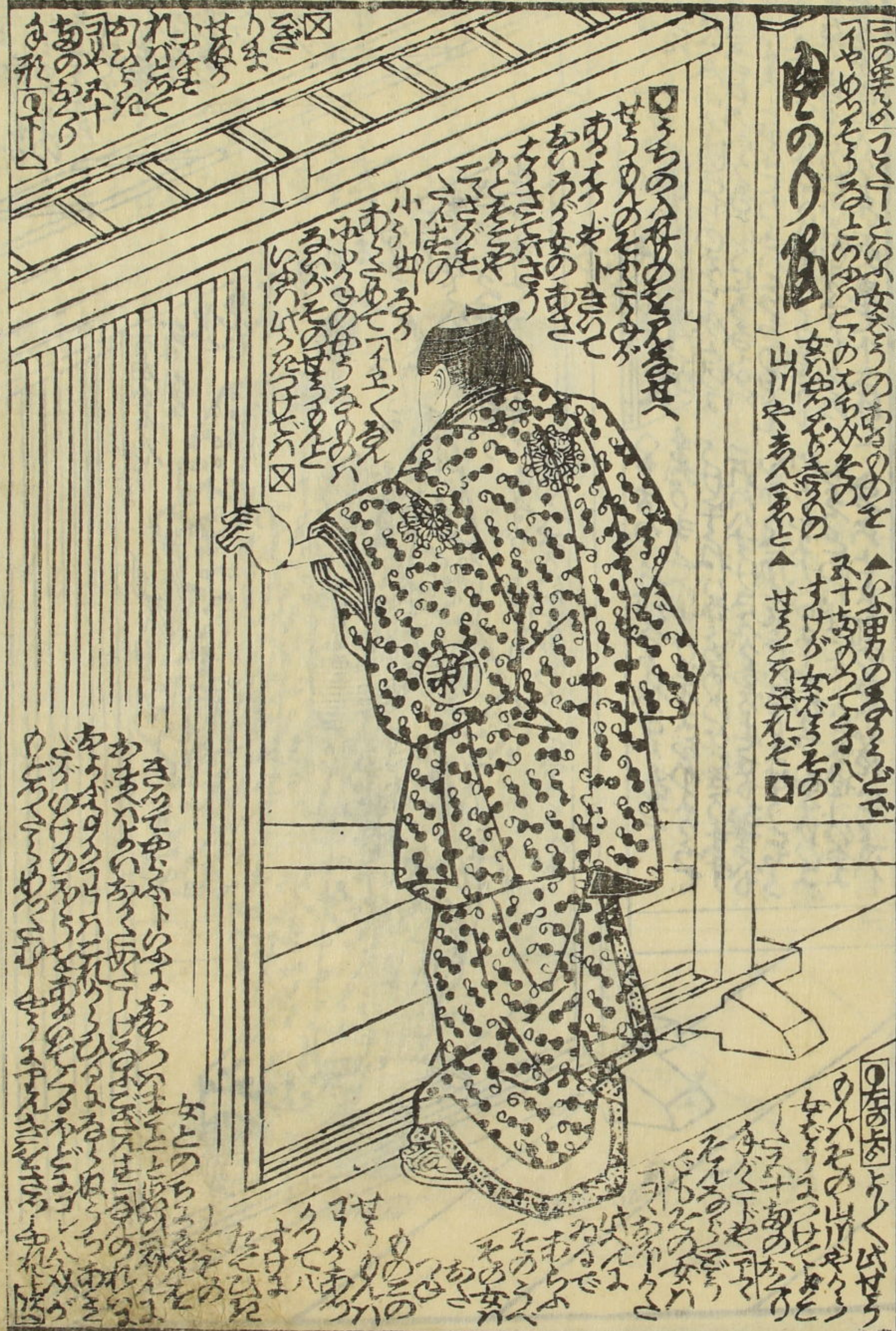


うらみ入りの玉の  
うらみのうちのカイロもさうさう  
うらみ入りの玉の  
うらみのうちのカイロもさうさう  
うらみ入りの玉の  
うらみのうちのカイロもさうさう

うらみ入りの玉の  
うらみのうちのカイロもさうさう  
うらみ入りの玉の  
うらみのうちのカイロもさうさう  
うらみ入りの玉の  
うらみのうちのカイロもさうさう

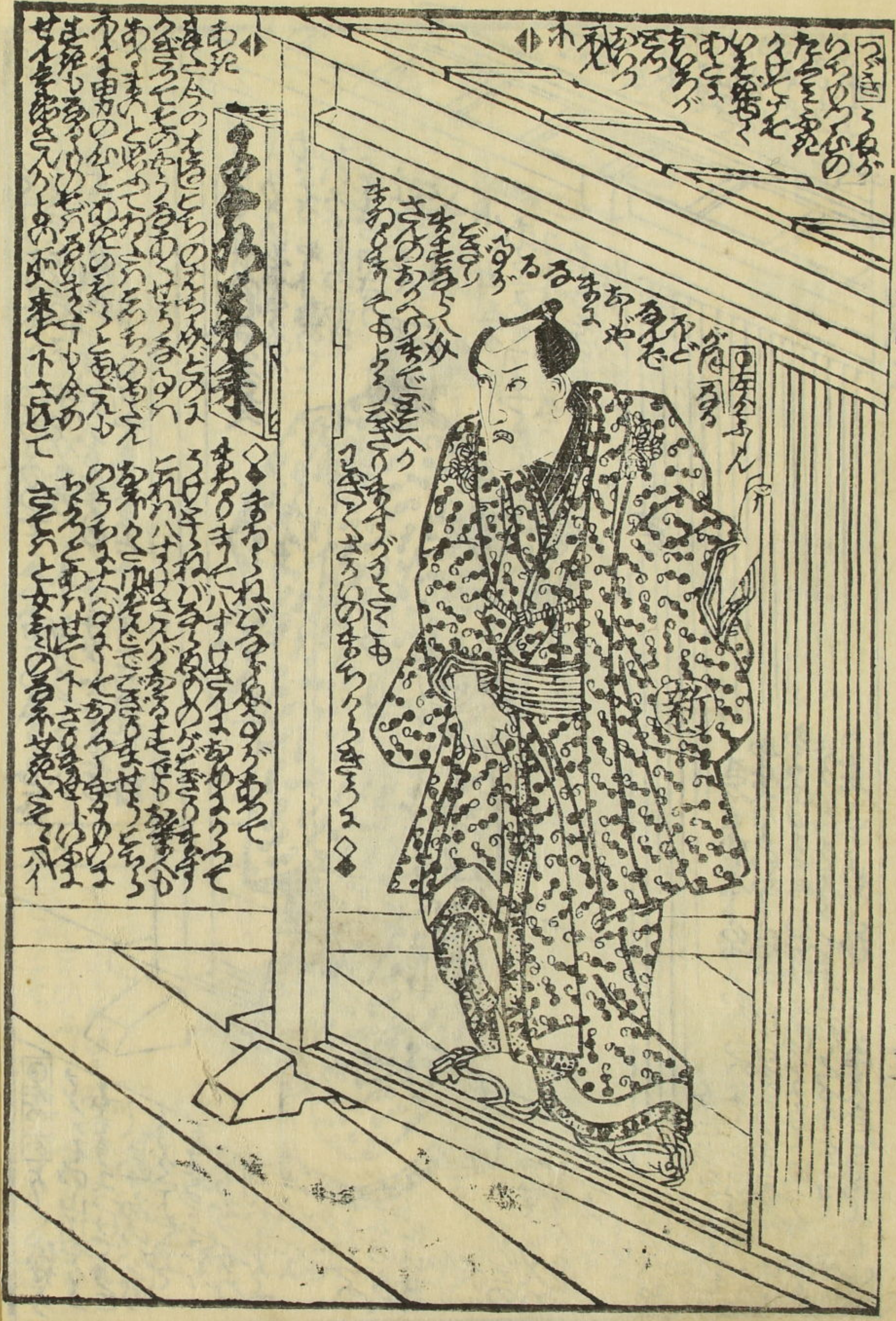
山

九



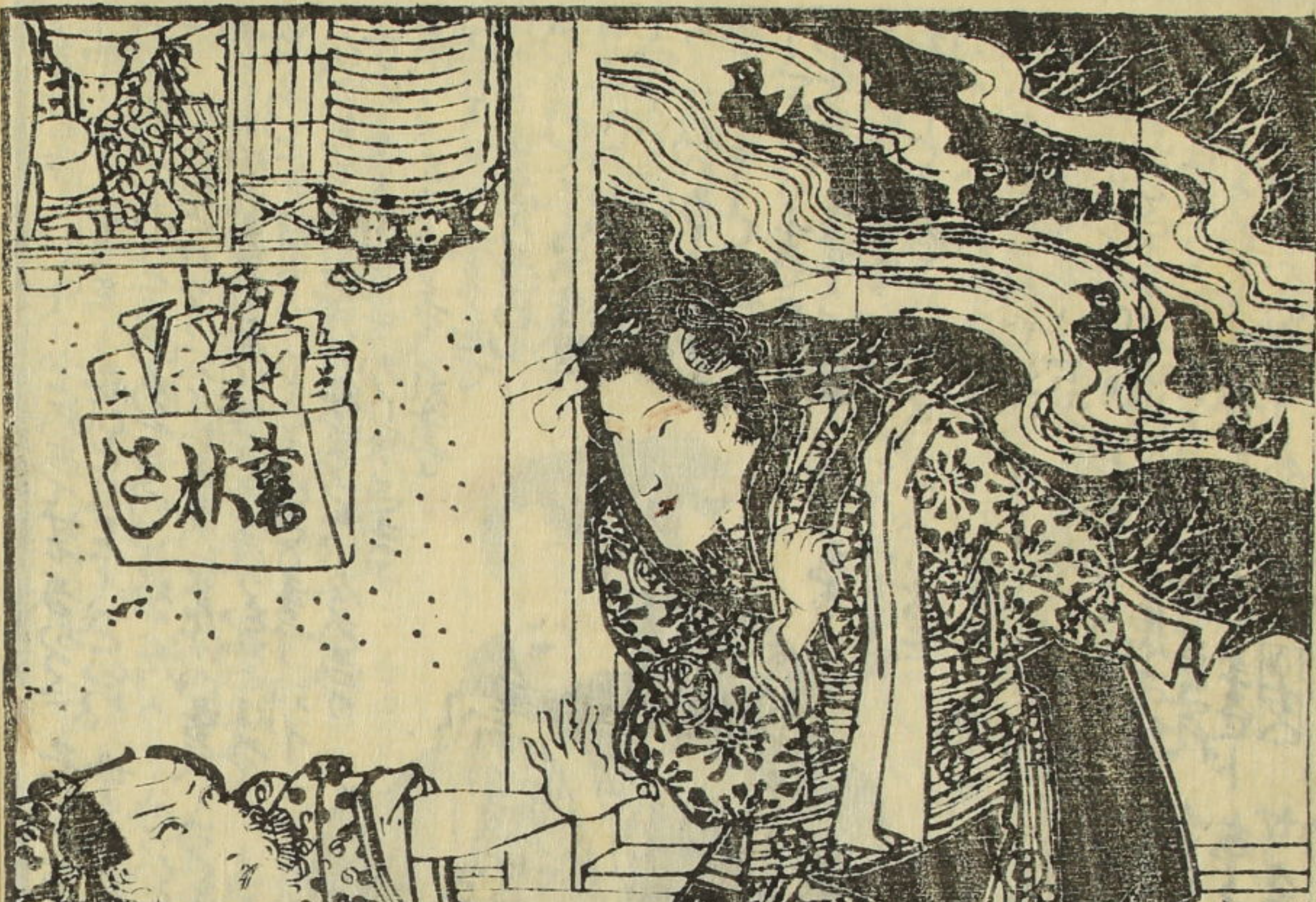
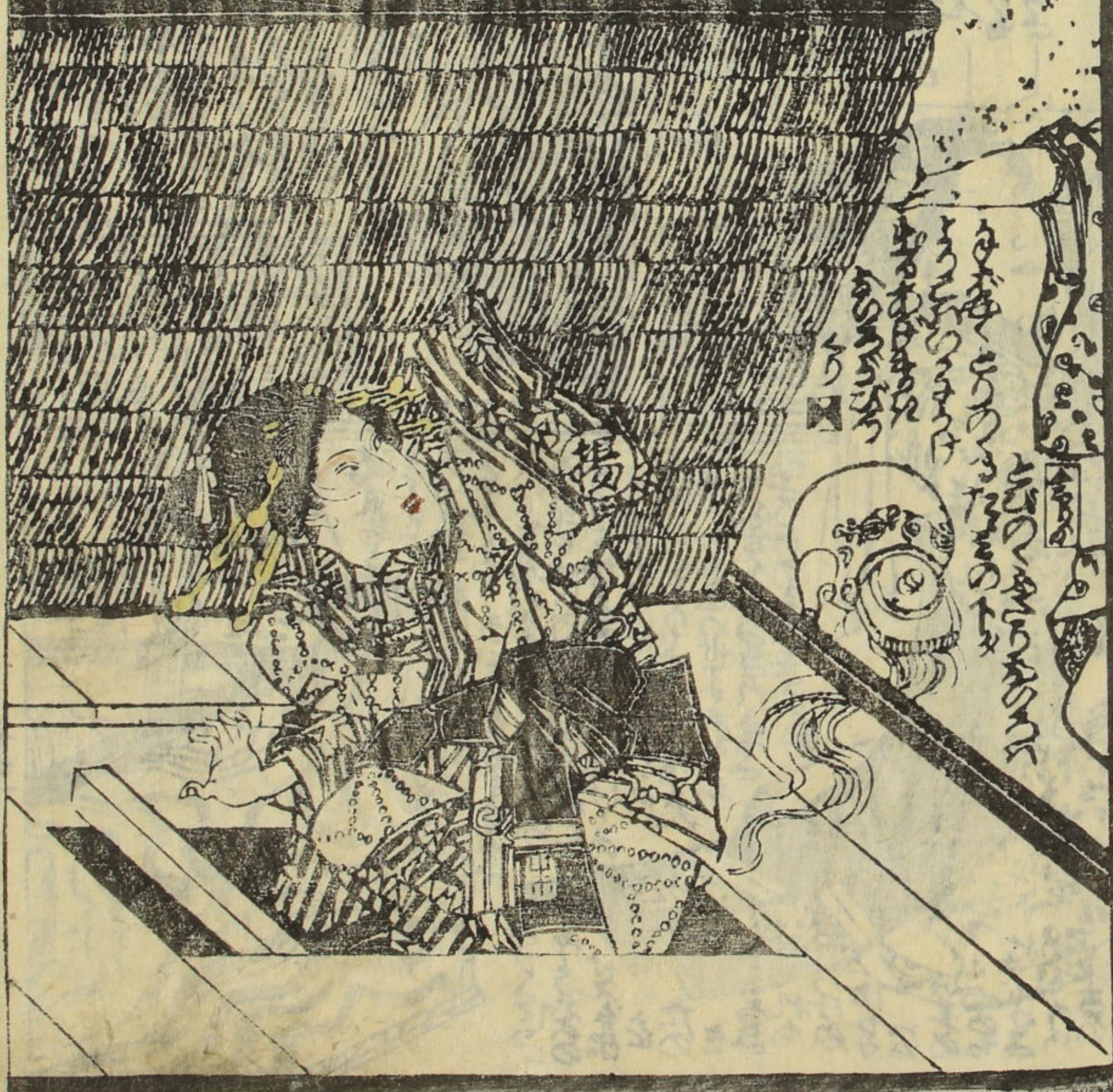


あんなときでして...  
 目...  
 山...  
 色...  
 女...



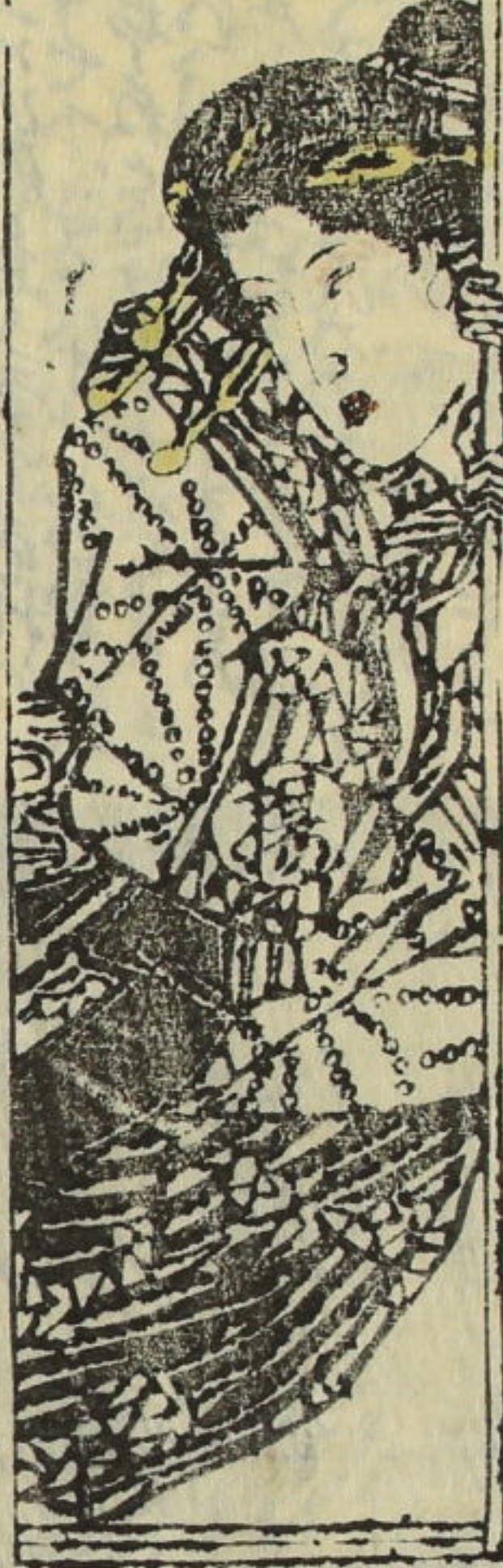
あんなときでして...  
 目...  
 山...  
 色...  
 女...

左の御女は一人目とてこの...  
右の御女は二人目とてこの...  
御女は一人目とてこの...  
御女は二人目とてこの...

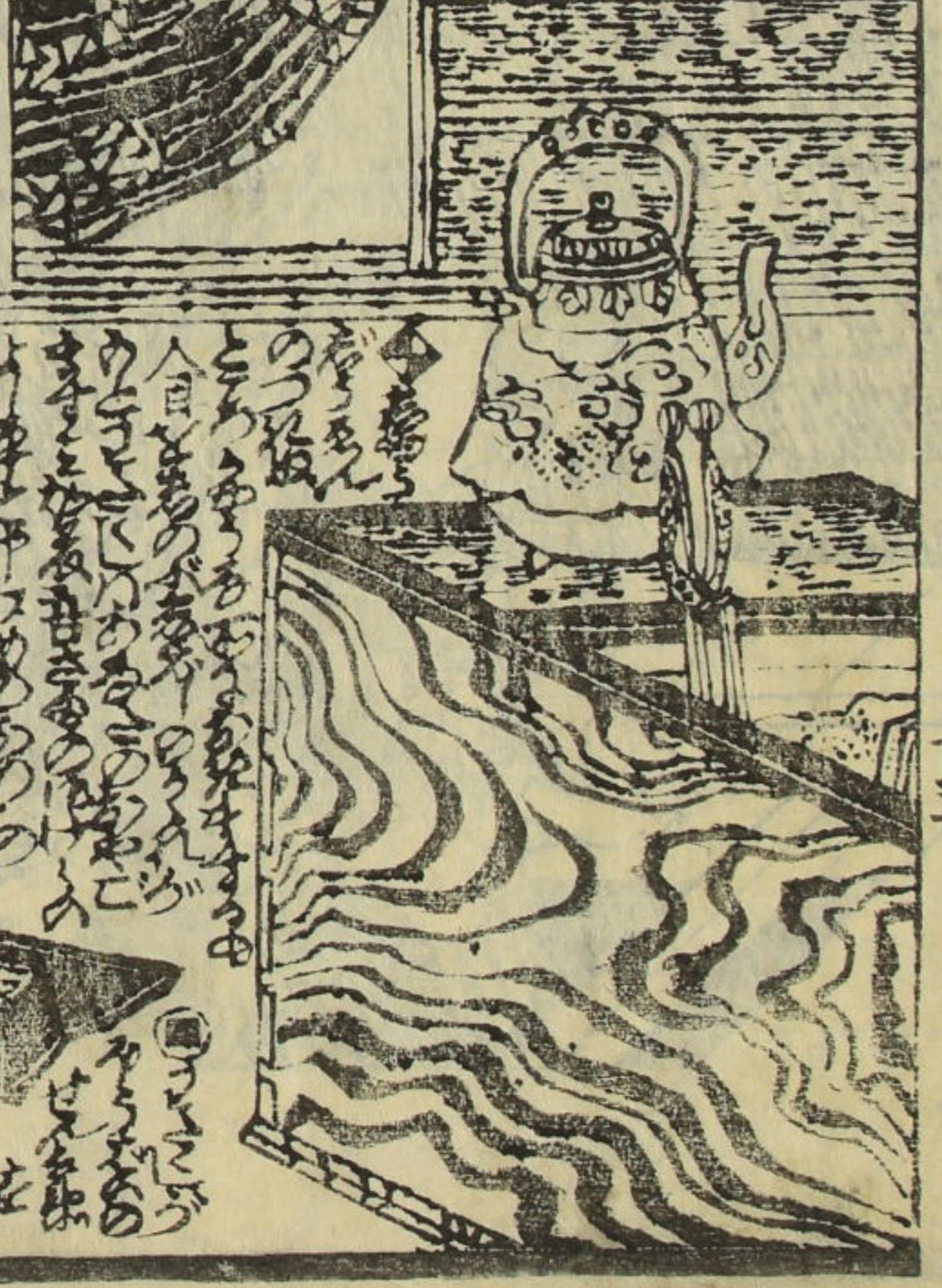


その御女の御女...  
その御女の御女...  
その御女の御女...  
その御女の御女...

又三つありしはけいの女は...  
あまのこころの...  
まはる...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...



あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...



あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...

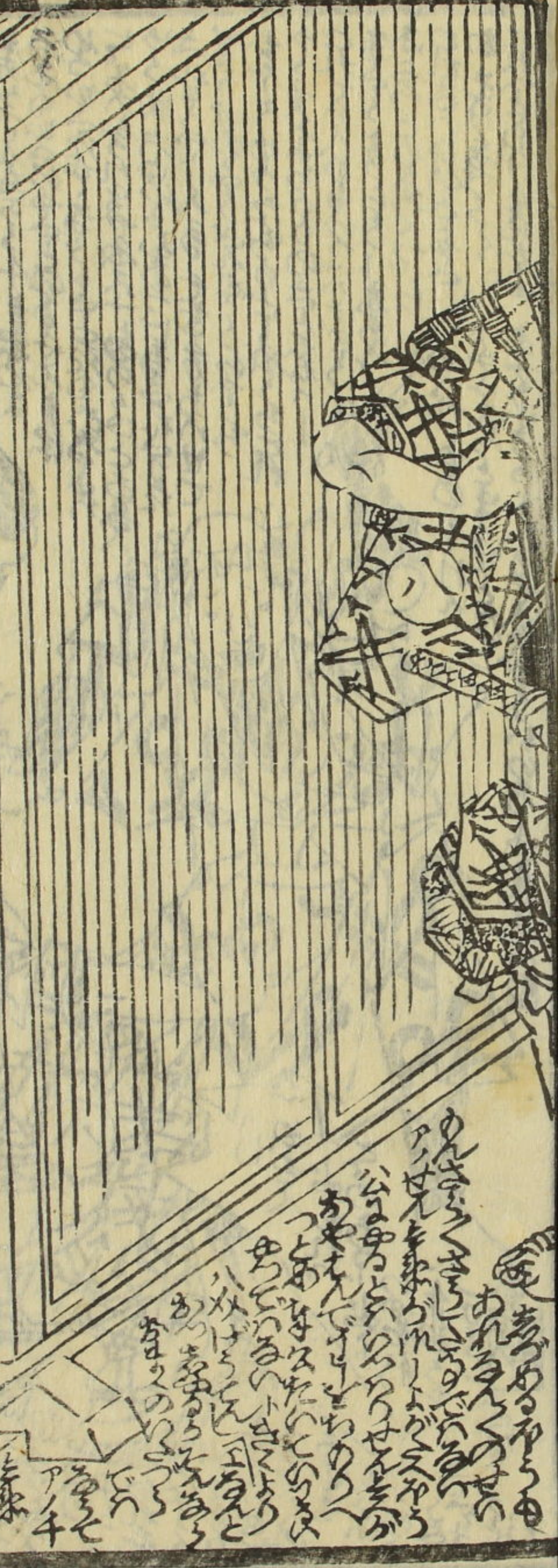


あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...



いざなすは...  
よののく...  
の...  
ハナハ

いざなすは...  
よののく...  
の...  
ハナハ



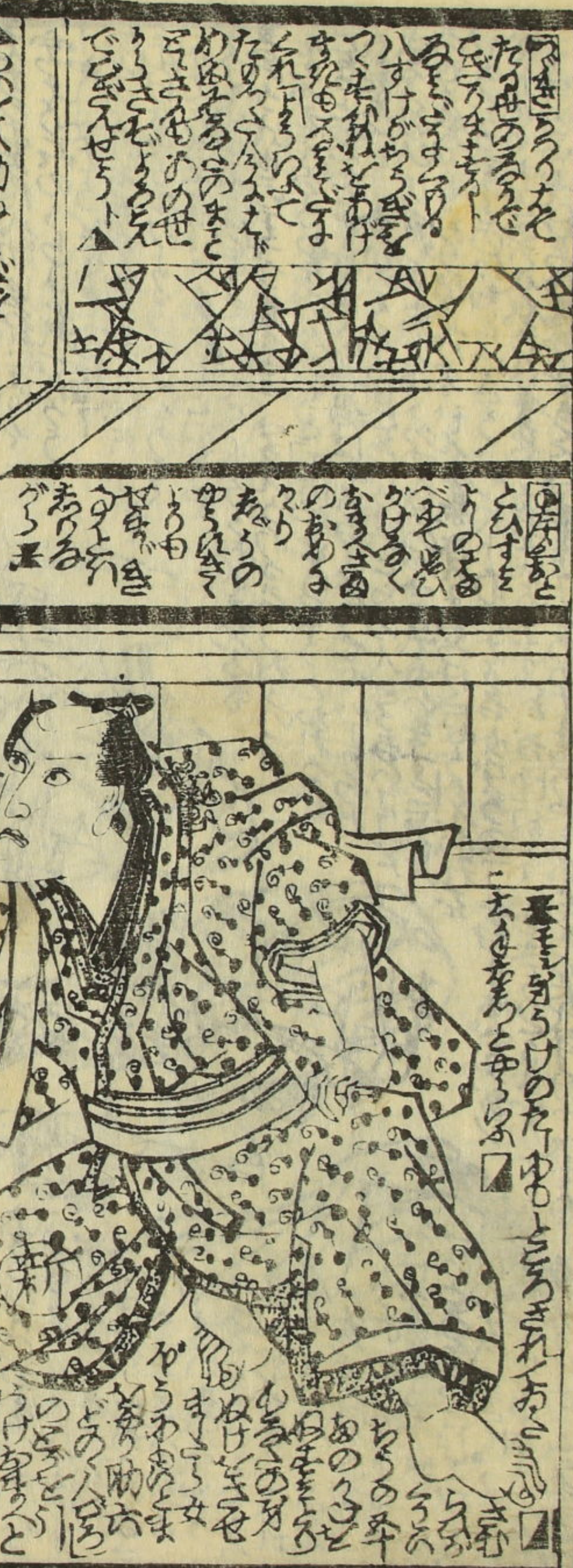
いざなすは...  
よののく...  
の...  
ハナハ

いざなすは...  
よののく...  
の...  
ハナハ



いざなすは...  
よののく...  
の...  
ハナハ

いざなすは...  
よののく...  
の...  
ハナハ



いざなすは...  
よののく...  
の...  
ハナハ

いざなすは...  
よののく...  
の...  
ハナハ

山...  
十四





壬辰春新版

むら  
とつら  
色し  
おと  
おの  
い  
さ  
は  
あ  
い  
か  
川  
の  
鼻  
の  
助  
去  
蜀  
山人





尾下

結

そで下

の巻

平社

山口

素梅

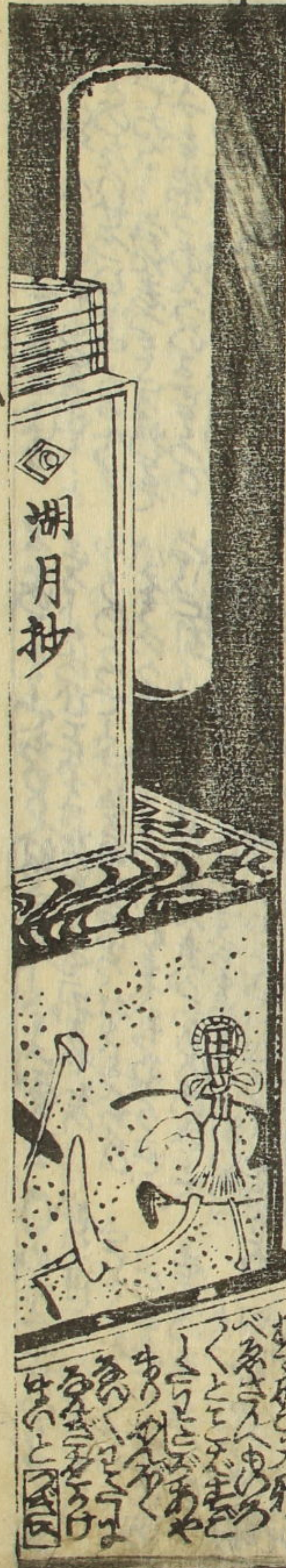
國貞

眞画

四

自君之出雲玉鏡多塵埃思君如鯉魚永夜雙眼用而

三のまは... 玉鏡... 塵埃... 思君... 鯉魚... 永夜... 雙眼... 用而... 此の巻... 尾下... 結... そで下... の巻... 平社... 山口... 素梅... 國貞... 眞画... 此の巻... 尾下... 結... そで下... の巻... 平社... 山口... 素梅... 國貞... 眞画...



湖月抄

山入

山入

一十八日...  
 八助中...  
 公寸...  
 坊...  
 夕...  
 夕...



内...  
 それ...  
 夕...  
 夕...

夕...  
 夕...

乳守裏町

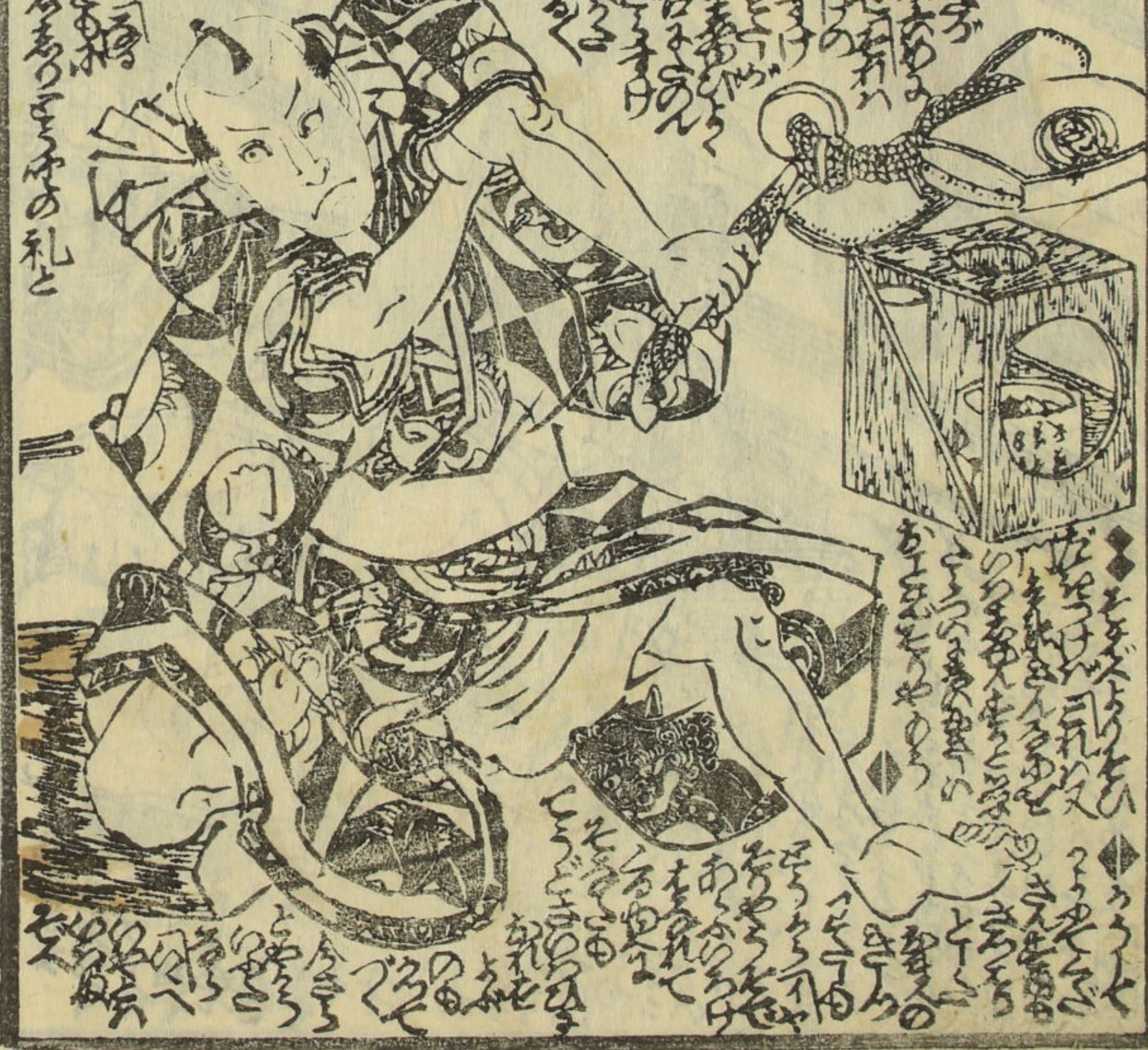
夕...  
夕...  
夕...

夕...  
夕...  
夕...

夕...  
夕...  
夕...



井体さへあはれぬとて... 井体さへあはれぬとて... 井体さへあはれぬとて...



井体さへあはれぬとて... 井体さへあはれぬとて...

井体さへあはれぬとて... 井体さへあはれぬとて... 井体さへあはれぬとて...



井体さへあはれぬとて... 井体さへあはれぬとて...









七十一

七十一



七十一

七十一

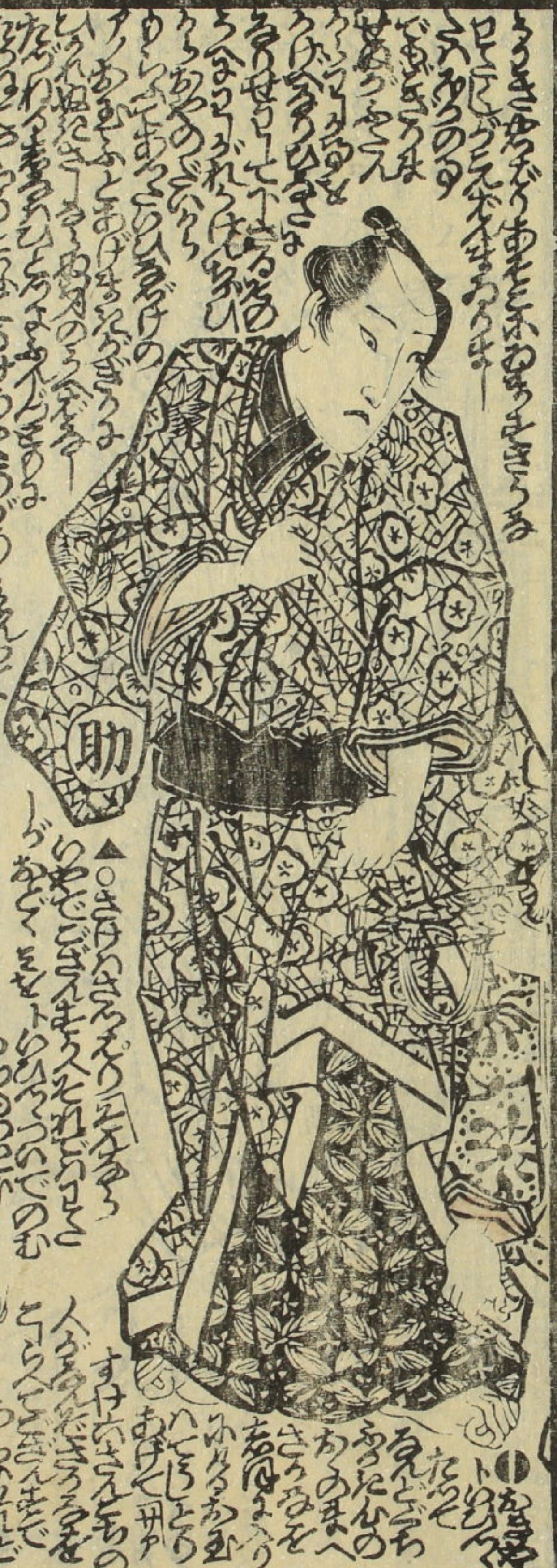




何れも此の世の中は...  
 人の世の中は...  
 女は...  
 助六の...  
 ...



助六の...  
 ...



助六の...  
 ...



らけてあつて下されとのちかあつ  
のりあつてまかくやうなつち  
つちあつてまかくやうなつち  
つちあつてまかくやうなつち

たのこめ ⑤ 春の中

あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち

あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち

あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち

あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち

あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち  
あつてまかくやうなつち



占の衛  
占

占の辻と云ふと  
衣笠一閑  
坂鑑  
又え  
う



左泉海州

占の辻の  
往古の  
安部  
清明の曆  
書と陸  
舊地  
此所未だて占  
と云ふ俗談  
よとあ

占

占









